

平成26年度学校経営計画

国立市立国立第五小学校

教育目標	○学びあう子(本年度重点目標)	助けあう子	きたえあう子
学校経営の基本理念	目指す学校像	教師の基本姿勢	
一人一人がしっかりと自分のことは自分ででき(自立)、自分の考えをもち、自分で判断することができる(自律)相互依存ではない、真に『学びあい、助けあい、きたえあい』ができる子供たちを、教職員一丸となり育てていく。→関わりの中で高め合う児童の育成	(1) 児童が目を見せ、真剣に学び合い、友だちや先生と仲良く元氣いっぱい過ごす笑顔あふれる学校『子供の姿』 (2) 全教職員が教育公務員としての自覚と使命感、誇りを持ち、共通の目的に向かって、創造的に協働し、互いに切磋琢磨して人間性と専門性を磨き合う学校『教職員の姿』 (3) 保護者や地域社会との相互理解、連携を回り、学校のもつ教育力を家庭・地域社会のために積極的に生かし、共に子どもを見守り、育てていく学校『保護者・地域からみた学校の姿』	(1) 授業力の向上を常にめざす。 (2) 信頼ある開かれた学校づくりに努める。 (3) 意識の変化に対応できる学校づくりに努める。 (4) 子供の世界や感性を尊重する。 (5) 今あるものを常に見直し、改善につなげる組織である。	

◇ 専科教員を含め全教員で取り組む ■ 全教員で取り組むが成果確認は担任が行う 無印 担任が取り組む

領域	中期経営目標(カッコの数字は経営方針の番号)	短期経営目標	目標達成のための方策	成果指標		成果確認方法(中間6月末・最終1月末)	
				6月	1月		
学びあう子「確かな学力の向上(本年度重点目標)」	○基礎的な知識および技能の定着(3) ○身に付けた知識及び技能を活用する力の育成(3)	① 正しい鉛筆の持ち方を身に付けた児童を育成する。	○毎月1日は「えんぴつの日」とし、「OKマークをくるとまわしてなかゆびまくら」を全学級で確認させ、意識の向上を図る。 ○正しい鉛筆の持ち方ができない児童には、補助具を貸し出し、正しい持ち方を定着させる。	4 身に付いた児童が80%以上	30.4%	教員評価(児童観察)	
		② 学年配当の漢字の読み書きができる児童を育成する。	○ベーシックドリル等を活用しながら、前学年までに配当されている漢字の読み書き練習をさせる。 ○漢字の読み・筆順・熟語の確認・繰り返し書き取り練習を毎日取り入れ継続する。	4 平均正答率が90%以上 3 平均正答率が80%以上 2 平均正答率が70%以上 1 平均正答率が70%未満	79.7%		ベーシックドリルの平均点で評価(前期・後期)
		③ 基本的な計算の仕方を身に付けた児童を育成する。	○ベーシックドリル等を活用しながら、前学年までに既習の基礎的・基本的な学習内容を反復練習させる。	4 平均正答率が90%以上 3 平均正答率が80%以上 2 平均正答率が70%以上 1 平均正答率が70%未満	73.6%		ベーシックドリルの平均点で評価(前期・後期) ※算数少人数担当も評価者
		④ 問題解決に対する見通しをもち、根拠を立てて仮説を記述できる児童を育成する(3、4年) 問題の解決を図り、学んだことを振り返り考察を記述できる児童を育成する(5、6年)	○仮説 ①文型(語型)を用いて表現させる ②記述の観点を与える。これにより、学んだことを活用し思考力・判断力・表現力を高めさせる。 ○考察 ①記述の観点を与える ②記述した文章を友達と交流させる。これにより、学んだことを振り返り思考力・判断力・表現力を高めさせる。	4 80%以上の児童が達成 3 75%以上80%未満の児童が達成 2 70%以上75%未満の児童が達成 1 達成した児童が70%未満	71.0% 50.0%		ノート分析による教員評価
助けあう子「豊かな心の育成」	○自己肯定感をもち、他人も大切にできる児童の育成(1) ○社会の一員であるという自覚と規範意識をもった児童の育成(5)	⑤ 自己肯定感の高い児童を育成する。	○自尊感情アンケートの結果を活用し、個々に合った自信の持たせ方を教職員で共有できるようにする。 ○保護者との面談等を通じ、保護者と連絡を密にし、児童の良い所を伝え合えるようにする。 ○児童が表現したもの(文章・発表・作品等)を交流し合う場を設け、互いのよさを伝え合えるようにする。 ○学期に1回は道徳などで、自尊感情・自己肯定感を高める授業を行う。	4 A自己評価・自己受容の平均値が3.5以上 3 A自己評価・自己受容の平均値が3.2以上 2 A自己評価・自己受容の平均値が2.9以上 1 A自己評価・自己受容が2.9未満	3.18%	5月・1月に自尊感情測定調査を実施、教員が評価	
		⑥ すぐれた先生や外部の方に、適切な(明確な声・一度あいさつした人には黙礼など)挨拶ができる児童を育成する。	○各学級で作成した「あいさつ宣言」や児童が作成した「あいさつ標語」を校内に掲示し、適切なあいさつに対する意識を高める。 ○高学年の児童には、あいさつ当番等の活動を通して手本となるあいさつをさせる。 ○教職員がお手本となるあいさつを行う。	4 90%以上の児童が身に付いている 3 80%以上90%未満の児童が身に付いている 2 70%以上80%未満の児童が身に付いている 1 身に付いている児童が70%未満	87.1%	児童観察による教員自己評価	
		⑦ 仲間外れや相手の嫌がる言葉遣いなどのいじめをしない児童を育成する	○毎学期1回「いじめアンケート」を実施し、予防策・早期発見に努める。 ○人権月間に、ビデオ・DVD教材を活用し、自分や他の命を大切にしようとする気持ちを育む。 ○5年生とスクールカウンセラーの給食交流を行い、相談しやすい環境を整える。	4 100%の児童が、仲間外れをしったり、嫌がらせをしったりしない。 3 95%以上の100%未満の児童が、仲間外れをしったり、嫌がらせをしったりしない。 2 90%以上95%未満の児童が、仲間外れをしったり、嫌がらせをしったりしない。 1 嫌がらせや仲間外れをしない児童が90%未満	89.4%	児童観察による教員自己評価	
きたえあう子「たくましい体の育成」	○基礎的な体力の向上(4) ○心身の健康づくりに努める児童の育成(4)	⑧ 基礎的な体力の向上に努める児童を育成する。	○隔週水曜日の中休みに「パワーアップタイム」を設定し、クラスごとに体力向上を図るための運動に順次取り組ませる。 ○体育委員会による「パワーアップイベント」を開催し、体力向上を図った運動を、ゲーム感覚で楽しみながら行う。 ○教室にハンドグリップなどの簡単な器具を置き、握力や手首の強化を児童に促す。 ○各クラスで1年間継続して行える体育的活動を「一学級一実践」として設定し、実施する。	4 都平均と同じか、上回る種目が75%以上 3 都平均と同じか、上回る種目が60%以上75%未満 2 都平均と同じか、上回る種目が50%以上60%未満 1 都平均と同じか、上回る種目が50%未満	71.8%	6月末までに実施した体力テストで教員が評価	
		⑨ 自分自身の体や健康について意識し、健康な生活を送る努力をする児童を育成する。	○体力向上に関するお便りや保健だよりにて、早寝早起きなどの大切さを伝え、保護者への意識啓発を図る。 ○養護教諭による保健指導を通して、自分の体への関心を高め、健康の大切さを理解させる。 ○健康診断の結果、季節など、児童の実態に応じた健康課題を解決するための活動を保健委員会で行っていく。	4 「早寝早起き朝ご飯朝うんち」がほぼ(週4日以上)できていると答える児童が90%以上 3 「早寝早起き朝ご飯朝うんち」がほぼ(週4日以上)できていると答える児童が85%以上90%未満 2 「早寝早起き朝ご飯朝うんち」がほぼ(週4日以上)できていると答える児童が80%以上85%未満 1 「早寝早起き朝ご飯朝うんち」がほぼ(週4日以上)できていると答える児童が80%未満	66.6%	児童自己評価	
		⑩ 好き嫌いをしないで給食を食べる児童を育成する。	○校長講話で、食についての話をし、残菜減量についての意識啓発をする。 ○適宜残菜量の実態について児童に伝え、残菜減量についての意識啓発をする。 ○食育月間で、発達段階に応じた食育指導を行う。	4 平均より1%以上残菜(おかず)の多い日が月の三分の一以下の月が6か月以上 3 平均より1%以上残菜(おかず)の多い日が月の三分の一以下の月が4か月~5か月 2 平均より1%以上残菜(おかず)の多い日が月の三分の一以下の月が3か月 1 平均より1%以上残菜(おかず)の多い日が月の三分の一以下の月が2か月以下	0.0%	給食センターから送付される残菜率で副校長が記録、学年末評価	